

コマツナ

連作にも耐える強健野菜コマツナ

コマツナは在来のカブから分化した古い歴史をもつツケナの代表種で、江戸時代に、当時下総国葛飾郡小松川村の特産であったことから「コマツナ」と呼ばれるようになったと伝えられています。

市場に多く出回っているのは丸葉系品種ですが、武州寒菜、信夫菜、女池菜、大崎菜など、同系の菜は全国各地にあります。いずれも耐寒性があり、暑さ寒さにもよく耐え、ほとんど周年的に栽培することができます。

また、連作による病害虫の発生の恐れもほとんどない強健野菜ですので、狭い畑やプランターなどの栽培にもとり入れやすく、生育が早く、管理が楽なので、初心者にも一番先に勧めてよい野菜といえます。

【方法】秋がいちばん育てやすい時期で、播種してから25～30日で収穫できます。

いちばんの需要の時期の正月に収穫するには、関東南部以西では50～60日の生育期間を見て播種すればよいでしょう。発芽の最適温度は25℃ですが、発芽可能な温度幅は相当広く、6℃ぐらいでも発芽しますので、冬でもビニールトンネルを被覆すれば十分栽培することができます。

通常、ワク幅のまき溝をつくってすじまきにしますが、狭い畑を有効に使うにはベッドを設けて細かいすじまきにします。種子はいっばんに発芽しやすいので、厚まきはしないようににし、込み合ったところは早めに間引きし、株張りよく育てます。

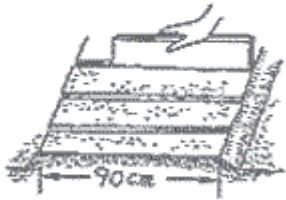
間引きした後は、条間に追肥し、クワや竹べらなどで軽く土に混ぜ込んでおきます。

アブラナ科の野菜なので、時期によってはコナガなど害虫にやられることが多いです。

無農薬のためには、べたがけ資材などの被覆が必要となります。



溝幅いっばんに種をまく。種と種の間隔は2cmくらい。



板切れで幅2cm、深さ1cmくらいの溝をつけて種をまく。



本葉1枚のころ3～4cm間隔に間引く。



草丈7～8cmのころ、5～6cm間隔に間引く。